



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／城石 俊弘 福岡県教育庁筑豊教育事務所社会教育室 主任社会教育主事
森山 貴仁 大分県教育庁社会教育課生涯学習推進班 社会教育主事

分科会の進め方

10:45～10:50

1 「花より論語」：中国文化で「学舎融合」—地域の特色を生かした多久市立中部小学校の学校運営— 10:50～11:20

松田 美恵 (佐賀県多久市立中部小学校 前校長)
吉崎 泰 (同 上 教頭)
田島 恭子 (財団法人「孔子の里」 事業担当)

(財)「孔子の里」、多久市教委のサポートのもと、中部小学校は論語と中国伝統芸能「腰鼓」を取り入れ、学校経営の特色としている。校舎中庭には「丹邱の庭」と称する論語ひろばコーナーを整備し、表に上の句、裏に下の句を記し、論語100の習得を図っている。多久市主催の「論語カルタ大会」には児童の半数以上が参加、学年別戦で上位入賞者を輩出している。また多久聖廟で行なわれる春秋の「釈菜」にも全校児童で参加し、「腰鼓」の披露など式典のプログラムに貢献している。

2 15小学校と校区公民館による学校支援地域本部事業での学社連携—地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり— 11:25～11:55

有村 博文 (鹿児島市教育委員会生涯学習課 指導主事)

鹿児島市には昭和48年度から開始した全小学校区における校区公民館運営審議会の制度があり、生涯学習、青少年健全育成を推進して来た。「学校支援地域本部事業」については、上記「審議会」に「地域教育協議会」の機能を併せ持たせて、15の小学校に地域コーディネーターを配置し、学校の要望に添ったボランティアを募集した。事業目標は、第1に教員が子どもと向き合う時間を拡充する事、第2に住民が生涯学習で学んだ成果を活用できる事、第3に地域の教育力を活性化することに焦点化している。

3 那覇市若狭小学校区の路地(スージグァ)文化の再生と協働のまちづくり—NPO、小学校、自治会連合会の子どもに焦点化したふるさと学習の成果と考察— 12:00～12:30

早川 忠光 (沖縄県那覇市 NPO法人地域サポートわかさ 理事長)

危険がない限り「スージグァー」(筋小)は子ども集団の遊びと生活の場であった。NPO地域サポートわかさは、スージグァー文化の再生を目指し小学校、自治会、公民館と共同でプロジェクトを立ち上げ、5年生の授業を通して22のスージグァーに愛称をつけた。当該NPOは児童に対するオリエンテーションを実施し、古きは周辺の歴史、特性、故事来歴を伝えている。児童は道のネーミングや看板のデザインを考え、学校はNPOと連携して研究授業を推進。完成した看板は各自治会長が地域住民に協力を依頼する。それぞれの協働活動で「スージグァー」は甦り、新たな役割を果たしている。